



世界へ発信！



2つのユネスコ遺産

■問合せ 世界ジオパーク・縄文世界遺産推進室(☎ 82-3663)

タイの世界遺産における インタープリテーション調査報告

昨年 11 月、世界遺産に関するインタープリテーション調査がタイで行われ、調査に参加した洞爺湖町の学芸員による報告会が 3 月 29 日に開催されました。「インタープリテーション」とは自然や文化の価値を紹介する手法の一つで、単なる情報提供ではなく様々な方法によってその魅力を伝え、来訪者により深い理解や感動を感じてもらおうという考え方です。



アユタヤ

調査はタイの世界遺産「アユタヤ」「プー・プラ・バート」「バンチェン」で行われました。アユタヤは、14 世紀に設立したアユタヤ王朝の中心都市で、国際貿易都市として繁栄しました。プー・プラ・バートは奇岩を利用した 8 世紀を中心とする仏教関連の祭祀場で、約 3000 年前の岩絵も発見されています。バンチェンは縄文遺跡群と同じ「埋蔵文化財」で、赤色顔料で模様を描いた土器が特徴的な 5600 年前～1800 年前の集落遺跡です。



プー・プラ・バート

アユタヤとプー・プラ・バートの現地調査では解説表示が必要最小限で、目の前にある実物のモニュメントを見てもらうことを第一としていました。ただし、「見て満足」してしまい、より深く理解する工夫はあまり見られませんでした。バンチェンは隣接する国立博物館で調査を実施しました。展示は充実しており、特に遺跡の象徴である土器については丁寧な解説がされていました。また、ジオラマにも力を入れており、当時の暮らしや自然環境が再現されているほか、発掘調査の様子も詳細に展示するなど、「埋蔵文化財」という見えない文化財の価値を伝える工夫が充実していました。

一方、プー・プラ・バートやバンチェンでは遺跡のある地域に、今暮している住民（民族）についても詳しく紹介していました。そこで暮らす人々は遺跡を保存し継承していく担い手として重要な存在です。縄文遺跡群でも新たなインタープリテーションとして必要な観点であると感じました。



バンチェン土器